

氏名・(本籍)	信賀 加奈子 (埼玉県)
学位の種類	博士(文学)
学位記番号	博甲第19号
学位授与年月日	令和2年3月18日
学位授与の要件	学位規程第2条第2項該当
学位論文題目	チベットの長寿成就法 — 『チャッキドンポ』 (<i>ICags kyi sdong po</i>) 校訂・訳注研究 を中心として—
論文審査委員	主査 教授 デレアヌ フロリン 副査 教授 落合 俊典 副査 教授 斉藤 明

論文内容の要旨

本論文は、チベットの長寿成就法『チャッキドンポ』に関する論考となる第I部、その校訂・訳注研究となる第II部、そして、そのシノプシス等の補助的資料を提出する付録という3部によって構成される。各部各章の内容は以下の通りである。

第I部 長寿成就法『チャッキドンポ』の形成と展開

第1章 序論

第1章では、序論として、校訂・訳注研究の前提となる基本的枠組みについて整理する。まず *tshe sgrub* (長寿成就法) というチベット語の語義や所依經典について調べる。第1.1章では、長寿成就法の所依經典の一つとして知られる<無量寿宗要經> について、『チャッキドンポ』が同經からダーラニーを引用しているという想定のもと、『チャッキドンポ』がこれを引用するに至った経緯について考察をすすめる。第1.2章では、先行研究について整理する。第1.3章では、本論文の目的と方法を提示する。

第2章 長寿成就法『チャッキドンポ』の概要

第2章では、『チャッキドンポ』の概要を提示する。まず第2.1章では、『チャッキドンポ』を伝えるチャンテルについて、その発掘者であるリクズィン・グウデムチェン(1337-1409)の伝記を中心に考察する。第2.2章では、本論文において使用した『チャッキドンポ』の3本の木版本を収録する集成類について考察する。第2.3章では、前章の考察に基づき、本論文が参照する箇所情報を確定、提示する。第2.4章では、『チャッキドンポ』の起源について考察する。第2.5章では、『チャッキドンポ』がパドマサンバヴァによって埋蔵された経緯について考察

する。第2.6章では、発掘の経緯について考察する。第2.7章では、『チャッキドンポ』の記述言語について考察する。第2.8章では、『チャッキドンポ』が称える2つの功德について考察を行う。第2.9章では、『チャッキドンポ』を修習した結果、長寿に関する持明者となった成就者の具体的例として、タントンギャルポ(1361-1485?)の死生観を中心に考察する。まずタントンギャルポ伝の原典を概観し、彼が『チャッキドンポ』を受法したことを伝える箇所を確認する。彼が125歳という長命を得て、最期に極楽往生を果たす際に残した辞世を訳出し、考察する。この他、彼に帰される長寿成就法として知られる『チメーペルテル』について、先行研究を参照しつつ検討する。

第3章 結論

第3章では、第I部の論考に基づいて明らかになった点と、残された課題を要約して提示する。

第II部 長寿成就法『チャッキドンポ』校訂・訳注研究

第4章 長寿成就法『チャッキドンポ』テキスト、翻訳、各論

校訂・訳注研究となる第II部第4章は、『チャッキドンポ』の第0節から第4節(§§0-4)までの5つの節を、校訂テキスト、翻訳、そして各論に分けて提出する。

付録

第I部(論考)及び第II部(校訂・訳注研究)の補助的資料として、5つの付録を提出する。

論文審査の結果の要旨

本論文は、インド密教の修行形態の一つである長寿成就法の起源を探りながら、『チャッキドンポ』(*ICags kyi sdong po*)というチベット撰述のテキストの校訂・訳注研究とともに、当文献において説かれている長寿成就法の教理や実践、歴史的背景等を考察している。

本論文は、長寿成就法『チャッキドンポ』に関する論考となる第I部、その校訂・訳注研究となる第II部、そして、そのシノプシス等の補助的資料の付録という3部によって構成される。各部各章の内容は以下の通りである。

第I部 長寿成就法『チャッキドンポ』の形成と展開

第1章 序論

第1章では、序論として、長寿成就法『チャッキドンポ』校訂・訳注研究の前提となる基本的枠組みについて整理している。まず *tshe sgrub* (長寿成就法) というチベット語の語義や所依経典について調べている。

第1.1章では、長寿成就法の所依経典の一つとして知られる『無量寿宗要経』について、『チャッキドンポ』が同経からダーラニーを引用しているという想定のもと、その翻訳系譜、サンスクリット語原典、漢訳、チベット語訳等を調べ、『チャッキドンポ』がこれを引用する

に至った経緯について考察をすすめている。また、ここでダーラニーのテキストと試訳も提出している。その後、『チャッキドンポ』が発掘された14～15世紀チベットには、当該ダーラニーに関して、豊富な知識を有していたプトゥン・リンチェンドゥプをはじめとする学僧と、これらのダーラニーを含むテルマを発掘したテルトゥンとの2つの潮流が看取されることを指摘している。

第1.2章では、テルマとして発掘され、相続された長寿成就法の校訂・訳注研究を試みるにあたり、参照する必要がある先行研究について整理している。具体的には、次の4つの視座、即ち(1) 伝記に関する研究、(2) 長寿成就法に関する研究、(3) テルマに関する研究、(4) 『無量寿宗要経』に関する研究という4つの視座を設け、これまでの先行研究が何をどこまで明らかにしているかを年代順に一覧にし、これらを概観した上で、本研究の位置づけを提示している。

第1.3章では、本論文の目的と方法を論述している。

第2章 長寿成就法『チャッキドンポ』の概要

第2章では、長寿成就法『チャッキドンポ』の概要を、他の関連する諸資料と共に下記の順序で提示している。

第2.1章では、『チャッキドンポ』を伝えるチャンテルについて、その発掘者であるリクズイン・グウデムチェンの伝記『照射する陽光』を中心に考察している。なお、『照射する陽光』における『チャッキドンポ』発掘に関する箇所は、第2.6章(発掘)で論じている。

第2.2章では、原典研究として、本論文において使用した『チャッキドンポ』の3本の木版本が収録されている集成類について考察している。集成類の目録を調べ、その中に『チャッキドンポ』がどのように位置付けられているか、また、『チャッキドンポ』を構成する各節の名称、及び、節順について明らかにしている。

第2.3章では、第2.2章の考察に基づき、『チャッキドンポ』のタイトルと節構成について考察をすすめている。

第2.4章から第2.9章までは、第II部の校訂・訳注研究の各論で特に重要だと思われる点を取り上げ、他の関連する資料を交えて論じている。

第2.4章では、長寿成就法『チャッキドンポ』の起源、即ち、パドマサンバヴァが如何にして当該成就法を会得したかについて考察している。

第2.5章では、『チャッキドンポ』がパドマサンバヴァによって埋蔵された経緯を、主に五濁悪世という文脈で捉えて論述している。

第2.6章では、『チャッキドンポ』発掘の経緯について考察する。リクズイン・グウデムチェンの伝記『照射する陽光』から関連箇所を訳出し、『チャッキドンポ』の記述内容と照らし合わせて検討をすすめている。

第2.7章では、『チャッキドンポ』の記述言語について考察している。当該成就法は主にウチェン字体のチベット語で記述されているが、第0節はしがき(§0.1.1)と第1節外なる成就法(§1.1.1)の、共に冒頭に掲げられた帰敬文には、これと異なる文字が見在する。まず、これらの文字を一覧にして対照させ、その後、その文字と言語について順に検討をすすめている。

第2.8章では、『チャッキドンポ』が称える2つの功德について考察を行っている。この2つの功德という構図は『無量寿宗要経』にその萌芽が見られ、この点を主に検討している。

第2.9章では、『チャッキドンポ』を修習した結果、長寿に関する持明者となった成就者の具体例として、タントンギャルポ(Thang-stong-rgyal-po. 1361～1485? TBRC#P2778)の死生観を中心に考察している。まずタントンギャルポ伝の原典を概観し、彼が『チャッキドンポ』を受法したことを伝える伝記の箇所を確認している。その他、パドマサンバヴァが遺したとされる予言的伝記『予言書明灯』の中からタントンギャルポの寿命と遷化が予言された箇所を訳出し、検討をすすめている。タントンギャルポに帰される長寿成就法としては、『チャッキドンポ』の他に『チメーペルテル』と呼び慣らわされる長寿成就法が知られる。『チメーペルテル』の所依の経典等につき、先行研究を参照しつつ考察を行っている。その後、タントンギャルポの辞世について、その訳出を試み、長寿に関する持明者となった、この大成就者の死生観について考えている。最後に、タントンギャルポの遷化の様子を伝える箇所を訳出し、『予言書明灯』に予言された内容を比較参照しつつ、論じている。

第3章 結論

第3章では、第I部の論考に基づいて明らかになった点と、残された課題を要約して提示している。

第II部 長寿成就法『チャッキドンポ』校訂・訳注研究

第4章 長寿成就法『チャッキドンポ』テキスト、翻訳、各論

長寿成就法『チャッキドンポ』の校訂・訳注研究となる第II部第4章は、『チャッキドンポ』の第0節から第4節(§§04)までの5つの節を、校訂テキスト、翻訳、そして各論に分けて提示している。

付録 第I部(論考)、及び、第II部(校訂・訳注研究)の補助的資料として、5つの付録が提示されている：(1)長寿成就法『チャッキドンポ』§§04のシノプシス；(2)長寿成就法『チャッキドンポ』に見在する特殊文字の一覧；(3)長寿成就法『チャッキドンポ』で使用されるダーラニーの一覧；(4)『力倆部考究』と『リンチェンテルズの目録と相伝』における『チャッキドンポ』の相承系譜；(5)チャクサム流長寿成就法における無量寿仏の図。

*

令和2年3月17日午後2時から約70分間にわたり、提出論文について口述試問が厳正に実施された。口述内容は多岐に及んだが、主査・副査から、提出論文の優れている点を評価しつつ、訂正や改善が必要な箇所も指摘された。その主なものは、インド仏教における所依経典や『チャッキドンポ』に影響を及ぼした密教テキストを更に明らかにする事や全体構成及び各章の構成の改善、チベット語表記の統一、訳語の訂正、日本古写本に伝わる法天訳『無量寿宗要経』の伝承考察の可能性等である。

*

口述試問終了後、主査・副査の合議の結果、本論文は、従来の研究においては殆ど注目されなかった『チャッキドンポ』(ICags kyi sdong po)を文献学的な視点から検討し、その思想や歴史的背景の幾多の側面を解明しえたのみならず、初めてとなる、厳密な校訂及び訳注研

究をも提示した点等で、当該分野の研究の進展に大きく寄与すると認められた。本審査委員会は、本論文を博士（文学）の学位に十分に値する成果であると評価するものである。